

歴史と伝統が息づく越前和紙の里

越前和紙の郷、越前市五箇地区は福井県嶺北地方のほぼ中央に位置しています。

五箇とは^{おいず}不老・^{おおたき}大滝・^{いわもと}岩本・^{しんざいけ}新在家・^{さだとも}定友の五つの集落を指し、最も奥の大滝には紙祖神『川上御前』をお祀りする岡太神社・大瀧神社があります。現在の社殿(下宮)は江戸時代後期の再建で、1984(昭和59)年に国の重要文化財に指定されています。

昔ながらの街並みをのこす五箇の風景は、次世代に継承すべき美しい日本の歴史的風土が良好に保存されている地域として、『日本の歴史風土100選』に選ばれています。



紙祖神『川上御前』坐像(上)と毎年5月3日～5日に行われる祭礼(左上)



◀岡太神社一之鳥居と横山大観揮毫の社標



紙祖神 岡太神社・大瀧神社の下宮 本宮(国の重要文化財指定)



パピルス館 Tel.0778-42-1363

幼児から大人まで、オリジナルな紙づくりがスタッフの補助にて約30分程できます。色紙のほか、灯り、うちわ、御朱印帳づくりのメニューも充実しています。卒業証書づくりや絵馬づくり体験も人気です。様々な和紙製品を揃えるショップも併設。体験9:00～16:00 ショップは～16:30 火曜休



卯立の工芸館 Tel.0778-43-7800

江戸時代中期の紙漉き家屋を移築復元した施設。伝統工芸士をはじめ紙匠たちが、昔ながらの道具・原料を使って和紙づくりをする一連の工程を見学できる全国でも稀な施設です。予約にて、「本格的紙漉き体験」も可能です。

ご利用案内

開館時間 9:30～17:00
(入館は16:30まで)
休館日 火曜日※祝日の場合は開館
年末年始(12/28～1/4)

種別	区分	越前和紙の里 紙の文化博物館 卯立の工芸館入館料	
		個人	団体(15人以上)
特別展	大人	300円	200円
	高校生以下	無料	無料

交通のご案内



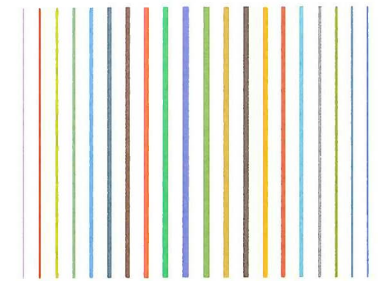
- 北陸道武生I.C.より約10分
- JR武生駅からタクシーで約20分
- JR武生駅から福鉄バス南越線または池田線「和紙の里行」で約30分
- 道の駅「越前たけふ」から車で約10分

〒915-0232 福井県越前市新在家町11-12
Tel:0778-42-0016 Fax:0778-42-3260
E-mail museum@echizenwashi.jp



越前和紙の里HP➡

和紙を知り、学ぶ。



越前和紙の里
紙の文化博物館
Museum of Washi and Culture

和紙を知り、学ぶ。

1300年を超える歴史を有する越前和紙。

紙の文化博物館では、その発祥や長い歴史、和紙を取り巻く人々の営みを学ぶことができます。

古来より公文書、書画、出版、建築など日本の文化を支えてきた越前和紙の魅力に触れてください。

「生漉奉書」の作業風景
岩野 市兵衛氏
(国指定重要無形文化財保持者)

本館 1F 和紙の里・ガイダンスゾーン

本館1階では、「世界に広がる越前和紙」「越前和紙の今昔」を映像とパネルで紹介しています。

岡本川を中心に営む和紙産地五箇(不老、大滝、岩本、新在家、定友)とともに、紙祖神「川上御前」を祀る国の重要文化財指定の『岡太神社・大瀧神社』や、産地の歴史と今をご覧ください。

また、様々な和紙使いの特別展示コーナーも併設しています。ぜひ、和紙を身近に取り入れてください。

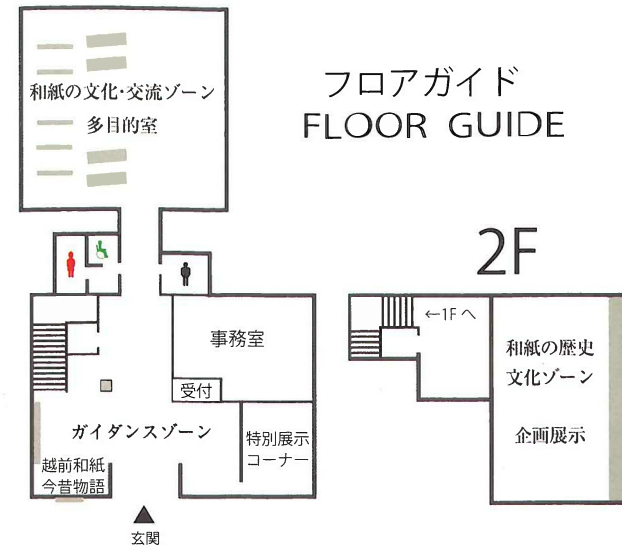


別館 和紙の交流・情報ゾーン

種類が多いことが特長のひとつと言われる越前和紙。奉書紙や鳥の子紙など伝統の紙をはじめ、産地を代表する様々な技法や模様の和紙約360点を展示しています。また、創作的な襖や壁紙、タペストリーの展示も随時行っていますので、お気に入りの和紙を見つけてください。別館は多目的空間として、企画展なども開催しています。



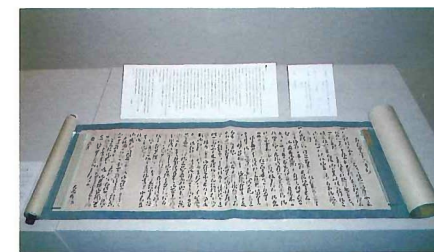
1F



本館 2F 和紙の歴史・文化ゾーン

2014(平成26)年に越前和紙の制作用具及び製品が、国の重要無形文化財に指定されたことを受けて、企画展示室としてリニューアルされました。

年数回の特別展示として、越前和紙の歴史的な資料や、美術品、新作製品などの展示を行います。





越前「和紙の里」めぐり

伝統の技と美しい自然に触れる散歩道

ご予約お問い合わせは
パピルス館
 TEL.0778-42-1363
 FAX.0778-42-2425

入館 無料

■開館時間/9:00~16:00(ショップは~16:30)
 ■休館日/火曜(祝日開館)、年末年始(12/28~1/4)

紙の文化博物館・卯立の工芸館

入館料(2館共通) [特別展] **300円 (200円)**
 ()内は15名以上の団体料金(要予約)
 障がい者手帳をお持ちの方は半額
 高校生以下は無料

■開館時間/9:30~17:00
 紙漉き見学は~16:00 入館は~16:30
 ■休館日/火曜(祝日開館)、年末年始(12/28~1/4)

パピルス館
 ショップ 和紙処えちぜん

卯立の工芸館
 時計ロ

紙の文化博物館

- パピルス館 紙すき体験のご案内**
- ◆色紙…………… 600円(1枚)
 - ◆はがき…………… 600円(2枚どり)
 - ◆はがき…………… 1,000円(4枚どり)
 - ◆中判…………… 1,200円
 - ◆大判…………… 2,000円
 - ◆うちわ(キット込) 1,600円
 - ◆ミニうちわ(キット込) 1,000円
 - ◆だるまづくり…… 1,000円
 - ◆あかり(キット込) 3,000円
 - ◆絵馬づくり…… 2,000円
 - ◆御朱印帳づくり 2,700円

和紙の里通り



パピルス館
 〒915-0232 福井県越前市新在家町8-44
 Tel.0778-42-1363 Fax.0778-42-2425

卯立の工芸館
 〒915-0232 福井県越前市新在家町9-21-2
 Tel.0778-43-7800 Fax.0778-43-7808

紙の文化博物館
 〒915-0232 福井県越前市新在家町11-12
 Tel.0778-42-0016 Fax.0778-42-3260

越前和紙の里HP→



至武生I.C. ←

越前

「和紙の里」めぐり

伝統の技と美しい自然に触れる散歩道

越前和紙の歴史・文化資料や、作品を多数展示



紙の文化博物館

産地を代表する約360点の和紙の展示をはじめ、歴史を物語る文化財や資料の保存・展示により、越前和紙について学ぶことができます。また、和紙を使った企画展示も随時行っています。

職人の紙すき技を伝統家屋で見学



うだつ 卯立の工芸館

江戸時代中期の紙漉き家屋を移築復元しました。伝統工芸士が昔ながらの道具を使って、ちりよりや和紙を漉く様子、乾燥など、和紙が作られる一連の工程を見ることができます。

紙すき体験で、和紙の心に触れてみる



パピルス館

世界中でたった一枚。スタッフの補助で、あなただけの和紙作りが、幼児から大人まで楽しめます。(約20分～)



和紙処 えちぜん

館内には、産地ならではの品揃え豊富な和紙や小物などの販売ショップもあります。

紙すきに挑戦!



紙の神様を祀る



紙祖神 岡太神社・大瀧神社

権現山頂上にある奥の院には、岡太神社と大瀧神社の両本殿が建ち並び、両社の里宮として国の重要文化財の下宮があります。岡太神社は、この里に紙すきを伝えたとされる「川上御前」を、紙祖神として祀っています。

美しい自然に秘められた歴史の舞台



かきょう 花筐公園

謡曲「花筐(はながたみ)」の舞台として名高い花筐公園は、桜をはじめとして、さつき、紫陽花、紅葉と四季を通じて美しい自然が楽しめます。継体天皇ゆかりの薄墨桜や皇子ケ池など見どころも沢山あります。

越前和紙の里 アクセスマップ

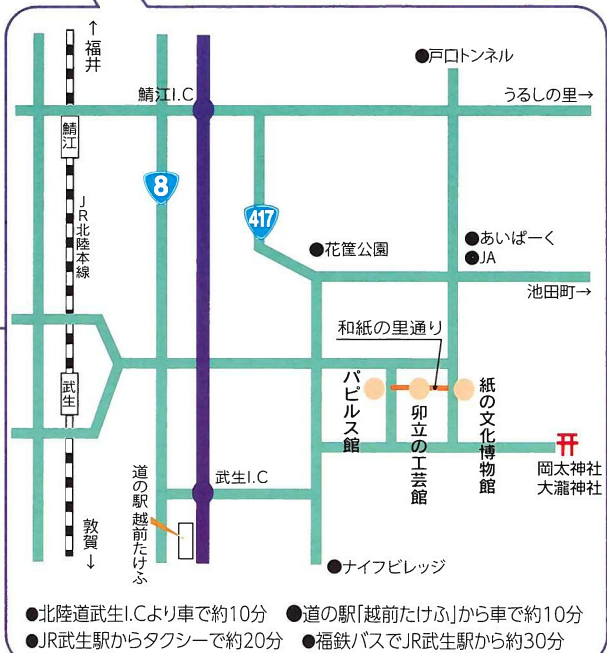


県内の主な観光地から和紙の里まで

- 恐竜博物館より (約80分)
- 永平寺より (約50分)
- 一乗谷朝倉氏遺跡より (約30分)
- 東尋坊より (約110分)
- レインボーラインより (約90分)

県外からの交通のご案内

- 米原I.C.～武生I.C. (北陸自動車道約60分)
- JR金沢～武生 (特急約60分)
- JR大阪～武生 (特急約120分)
- JR名古屋～武生 (特急約120分)



- 北陸道武生I.C.より車で約10分
- 道の駅「越前たけふ」から車で約10分
- JR武生駅からタクシーで約20分
- 福祉バスでJR武生駅から約30分

越前打刃物の歴史

越前市は、古くは越前国の国府が置かれ、長徳2年(996年)、越前国司に任ぜられた父 藤原為時と共に、紫式部がこの地を訪れています。

南北朝時代(1337年頃)、越前打刃物の開祖刀匠・千代鶴国安は、刀づくりに適した地を求め、この越前府中に移り住みました。千代鶴国安は、池の水面に映る月を眺め、越前打刃物の起源となる「三日月鎌」を着想し、刀鍛冶の技術を取り入れ、野鍛冶たちに伝授したと云われています。

江戸時代には、「越前鎌」として越前国の名産品に挙げられるようになり、明治以後には、ベルトハンマーが導入され生産性の向上や、科学的な鋼の熱処理方法の研究による品質(切れ味と耐久性)の向上が図られました。

昭和54年(1979年)、越前打刃物は、業界初の国の伝統的工艺品に指定されました。この後も、地元企業から新鋼材の供給や、斬新なデザイン開発などの技術革新を進めるなどにより、国内外で高い評価を得ています。

【刀匠千代鶴国安と狛犬】

刀匠千代鶴国安は、気に入った刀が出来上がるごとに、感謝の祈りとともに、刀が人を殺める武器にならぬこと、武士の象徴たることを願い、砥石で狛犬を彫り池に沈めたと云われています。その池は、「千代鶴神社」の境内にあり「千代鶴の池」として紹介され、越前打刃物の聖地として観光スポットにもなっています。



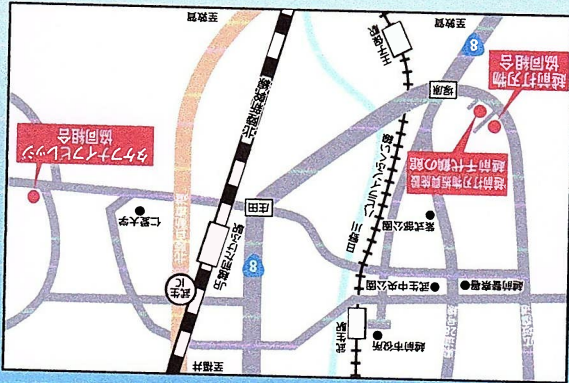
▼千代鶴の池



▼千代鶴神社



- 【交通のご案内】
- 越前千代鶴の館・越前打刃物協同組合
JR武生駅より車で15分／北陸自動車道 武生ICより10分
 - タケノコナイツ協同組合
JR武生駅より車で15分／北陸自動車道 武生ICより10分



タケノコナイツ協同組合
〒915-0031 福井県越前市糸川町22-91
TEL:0778-27-7100 FAX:0778-27-7100
HP: <http://www.takefu-knifevillage.jp>
(開館)9:00~17:00(年中無休)
(入場)無料
(駐車場)完備



越前打刃物協同組合
〒915-0873 福井県越前市池ノ上町49-1-3
TEL:0778-24-1200 FAX:0778-22-1015
HP: <http://www.echizenuchihamono.com>
(開館)8:30~17:00
(日祝)9:30~16:00
(休館日)年末年始(12/29~1/3)
(入場)無料
(駐車場)完備

越前千代鶴の館(越前市打刃物振興施設)
〒915-0873 福井県越前市池ノ上町48-6-1
TEL:0778-22-1241 FAX:0778-67-2070
HP: <http://www.hamamonosato.com/>
(開館)9:00~17:00
(休館日)毎週火曜・年末年始(12/29~1/3)
(入場)無料
(駐車場)完備

 越前千代鶴の館
Echizen Knife Hall of Fame



越前指物協同組合

伝統工芸士

伝統工芸士とは？

1975年(昭和50年)に誕生した制度で、「一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会」により高度の技術・技法を保持すると認定された技術者。日本各地にある、産地特有の伝統工芸の保存をはじめ、技術や技法の研さんに努力し、その技を後世に伝える責務を負っている。

こちらも Check!



Oyanagi Norikazu

2015年認定 小柳範和

魅せられる家宝、越前筆筒の魅力を発信。

幼少時より木にふれ、精密な作り方に魅了されて木工職人の道へ。四代目として家業を受け継ぐ。世代を超えて残り、長いストーリーがある筆筒をどう未来へつないでいくかを日々考え、具現化し、広く伝えている。特に越前筆筒への想い入れは強く、「魅せる筆筒=家宝、としての製造と発信に尽力。伝統の型を守りつつ、クリエイティブなものづくりを追求している。

小柳筆筒

越前市武生柳町10-7 ☎0778-22-1854



Sasaki Tomiyasu

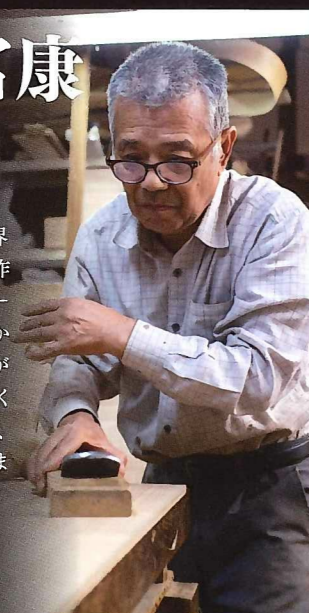
2015年認定 佐々木富康

兄弟でものづくりを続ける幸せを実感。

総桐筆筒の美しさに魅せられてこの世界へ。以来、上品で美しい武生桐筆筒を作り続け、ベストな状態での納品をモットーにしている。桐筆筒を知り尽くしているからこそ、最近ではリペアや再生なども手がけている。「長年、兄弟で仲良くものづくりを続けられることが何より幸せ」とし、今後は次世代への技術継承の労も惜しまない。

佐々木桐たんす

越前市宮谷町49-27 ☎0778-27-2724



Sasaki Shigeharu

2015年認定 佐々木重治

完璧を追い求め、真摯に向き合い続ける。

ものづくりに興味を持ち、兄に誘われ、鍛えられて約50年。兄とともに武生桐筆筒製造に携わる。「ものづくりは面白いというより、100点に近づくために常に真剣、真摯に向き合っているという感じ。伝統工芸士の資格は頑張ってきたご褒美だと思っています」。兄と数多くの桐筆筒を手がけてきたその姿勢は、謙虚さと誇りに満ちあふれている。

佐々木桐たんす

越前市宮谷町49-27 ☎0778-27-2724



Matsui Kenji

2015年認定 松井建士

使っていて元気になる本物の家具を届ける。

先代である父親の背中を見て、ものづくりの道へ。武生桐筆筒の技術を継承しつつ、「お客様に寄り添い、使っていて元気になる家具を作りたい」と斬新なデザインも重視、オーダーメイドにも対応する。10年以上前に吟味・選択した材料を使う越前筆筒製作には、いつも以上の緊張感を持って取り組む。本物を製作し発信するため、完璧を求め続けていく。

PEaPA まつ井

越前市元町6-14 ☎0778-22-0667



Mihara Shigeki

2015年認定 三原繁樹

暮らしに密着した独自の家具作り。

ものづくりが好きで始めた初代の下で修業。伝統的な家具はもちろん、現代のライフスタイルに合わせた家具も製作する。「お客様との話からデザインをイメージして製作。たった一点でも部屋のポイントやコーディネートできるアイテムになればうれしいですね」。色違いの木材使いや、コントラストを生かした家具製作にも面白さを見出している。

唐木工芸 work of みはら

越前市神明町1-23 ☎0778-22-4602



越前武生の匠

越前筆筒



福井県越前市は「越前和紙」「越前打刃物」「越前筆筒」と3つの伝統的工芸品が息づく「ものづくりのまち」。その一つ「越前筆筒」の匠たちは、伝統を受け継ぎながらも、新たなチャレンジに日々取り組んでいる。

越前武生の木工(指物)の歴史

越前市の古くからの市街地「越前武生」での木工の始まりは江戸末期から明治初期にかけて。能面作りなどの工芸的な仕事をしてきた者、手先が器用だった者が、お膳風呂や板戸などを作り、これが専門化されていったという。その後、指物師として旦那衆の家に出入りするようになり、高価な筆筒や建具などを製作した技術が、今に受け継がれている。

指物とは、

釘を使わずに木の板と板を組み、指し合わせる仕事のこと。また、その技法を使って作られた筆筒や調度品、建具などの製品を意味します。



越前武生のまちなかにある「タンス通り」。指物職人が集まっていた通りで、今でも家具店や工房が軒を連ねる。この古い町並みにある「越前筆筒会館」では、越前筆筒の展示を行う。



越前筆筒ができるまで

1 部材の加工

天然の無垢材のケヤキやキリなどの原木から木目などを考慮して、一枚板や角材などを切り出す。乾燥させた後、必要な部材に加工していく。



2 組み立て

筆筒の骨組みとなる枠は、指物の技術を生かした「平ほぞ接ぎ」「鬼ほぞ」と呼ばれる接合方法などで組み立てる。引き出しの組み立てには、引っ張りの強度に優れた「蟻組み」などの技法が用いられている。次に、全体のバランスを確認するために仮組み。漆塗装の仕上がりが美しくなるよう、木材の表面をかねて削り直す。



3 塗装

加工を施した部材を本組みし、漆の下塗りと上塗りを行う。越前筆筒の漆塗りの技法は主に2種類。①「春慶塗」さび漆(水で練った砥粉に生漆を混ぜたもの)で下塗りし、透塗(上質の生漆をゆっくり加熱して透明度を高くしたもの)で上塗りする。②「ふき漆塗」精製していない生漆の塗りつけと拭き取る工程を繰り返して行う。



4 金具

鉄を鍛造(金属製のハンマーなどで打ち伸ばす)し、型紙を貼り付けて鑿で切断する。形を作り、やすりで面を整えた後、これを熱して生糸(絹糸)をこすり付け、被膜を付ける。最後に筆筒に取り付けて完成。

完成!



越前指物協同組合 加盟工房



こちらも
Check!



市橋建具店

指物技術で
文化財を残し、
生かす活動を。

1988年創業。それ以前にも、指物職人として多くの建具製造に携わり、現在は寺社仏閣の建具も手がける。今後は全国伝統建具技術保存会の一員として、文化財の修復にも積極的に取り組んでいく。

鯖江市有定町1-2-6 ☎0778-51-3224



越前指物工芸 上坂

伝統技術と未来を
見すえた
発想を継承。

1887年創業。タンスや衝立などの代表的な指物のほか、越前筆筒に関する造詣も深い。豊かな発想と未来を見すえたさまざまな挑戦を続ける三代目を慕い、若手職人が技術と想いを継承している。

越前市平和町1-2-9 ☎0778-22-1769



小柳筆筒

木工の情報発信と
新分野への
挑戦を続ける。

1907年創業。時代筆筒や桐筆筒、建具のほか、時代に合うものづくりを続ける。四代目以降、木工の発信として工房見学や体験、雑貨製造・販売も展開。作り手の顔が見えるものづくりがモットー。

越前市武生柳町10-7 ☎0778-22-1854



株式会社 安久

暮らしを愉しむ
家具作りを目指し
日々研鑽する。

1963年創業。オーダー専門工房としてさまざまな製品を作り培ってきた技術を代々継承する。「木と暮らす、木を愉しむ」をコンセプトに、お客のライフスタイルに合った家具を提供するため研鑽を重ねる。

越前市小松1-12-21 ☎0778-22-3722



唐木工芸 work of みはら

独自デザインと
技法で高質品を
生み出す。

1958年創業。主に紫檀を使い、タンスやテーブル、チェストなどの家具をはじめ、小物も製作。大阪唐木指物を基本に独自のデザインや技法を駆使し、オーダーメイドにも対応している。

越前市神明町1-2-3 ☎0778-22-4602



組子ARTヨネクラ

組子細工の
奥深さと文化を
伝えていく。

1974年創業。家具や建具の製造の傍ら、組子細工の繊細な美しさと奥深さに感動し、技術や文化の継承を決意。大小さまざまな作品は、県内外の技能グランプリや展示会で入賞多数。作品のファンも多い。

鯖江市石田下町7-3-4 ☎0778-52-0738



佐々木桐たんす

兄弟で作り続ける
一点モノの
桐筆筒。

1978年創業。桐筆筒が作りたい兄弟のつくりに興味があった弟、二人で武生桐筆筒の製造を続けている。完全オーダーメイドで大半が一点モノ。今後は若手への伝統技術継承も考えている。

越前市宮谷町49-27 ☎0778-27-2724



タナカ建具

作り手が楽しく、
使い手が喜ぶ
ものづくり。

1959年創業。指物技術に応用し、工夫した襖や障子、衝立、造作家具などの建具をメインに製造する。「お客様に喜んでいただける仕事」をモットーに、製造以外にデザインも手がけている。

越前市大虫町6-8-3 ☎0778-22-2085



Furnitureholic

伝統的な技術を
駆使し、想いを
カタチにする。

2012年創業。越前筆筒やオーダーメイド家具、小物の企画・製造・販売を行う。仕事を手がける際に重視するのは先方とのコミュニケーション。「お客様の想いをカタチにする」ものづくりを目指す。

越前市大虫町6-2 ☎0778-43-5375



PEaPA まつ井

斬新な発想から
生まれる
総桐筆筒が人気。

1902年創業。松井家として360余年の歴史を誇り、木工業としては現在四代目。武生桐筆筒の製作・販売、技術継承に努める。斬新な発想の桐筆筒や一枚板のテーブルが広く支持されている。

越前市元町6-14 ☎0778-22-0667



三崎タンス店

伝統の本物の
素晴らしさを
後世につなぐ。

慶応年間創業。総桐筆筒や一枚板テーブルなどの製造・販売を通じて、伝統と本物の家具が持つ魅力を伝えている。筆筒の修繕も手がけるほか、生活用品の開発にもチャレンジしている。

越前市元町5-10 ☎0778-22-0568



mono製作所

伝統とモダンが
織りなすシャープな
オンリーワン家具。

2017年創業。北海道で修業を積んだ一級建築士の資格も取得した布谷さんが腕を振るうのは、障子や襖など新築家屋用のオーダーメイド家具。モダンでシンプルなデザインが人気で受注待ちも多い。

越前市大虫町6-8-4 ☎080-2950-5419



有限会社 くらや

5代目・匠の技と
アイデアが光る
新商品に注目。

1840年創業。越前市で最も歴史のある工房。指物事業を中心とし、木工製品全般のほか、災害発生時でも脱出・救出可能な特許品「救命扉」を手がけるなど、他に類を見ない伝統工芸品も製造している。

越前市池ノ上工業団地93-1-9 ☎0778-24-2788



越前筆筒会館 (越前指物協同組合)

越前市本町1-19
(カーナビ等をお使いの際は「越前市本町1-20」で検索してください)
開館時間/11:00~16:00
休館日/水・木曜 【入館無料】

